

平成19年度第2回磯子区地域福祉保健計画推進委員会議事録

開催日時	平成19年11月22日(木) 午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	磯子区役所 701号会議室
出席者	委員：佐藤委員・外村委員・上杉委員・鈴木委員・福土委員・水越委員・関野委員・石塚委員 佐々委員・野田委員・平野委員・三浦委員・米尾委員 事務局：宇賀神センター長・高柳担当部長・林課長・原田係長・伊東職員・小林職員・近藤職員 山口職員・小先職員 (区社協) 内藤事務局長・矢崎次長・山居職員 (ケアプラザ) 楠田職員(磯子)・杉浦職員(屏風ヶ浦)・岸本職員(新杉田) 大久職員・松田職員(洋光台)
欠席者	小島委員・三澤委員・濱田委員・中里委員・櫻井委員・時任委員・矢野委員・岩瀬委員 大平委員
議 事	<p>担当部長あいさつ</p> <p>1 各地区の取り組み状況 (各ケアプラザから)</p> <p>新杉田 : 杉田地区では各自治会町内会長を中心に取り組みを進めている。高齢者の健康づくり部会の他には、青少年と大人たちの交流部会が今までに2回開催しており、防犯と防災部会は12月に開催予定。</p> <p>洋光台 : 洋光台地区の「交流の集い」では、今まで顔を合わせることがなかった人たちが一同に会することができた。今後につなげていきたい。</p> <p>磯子 : 磯子地区のラジオ体操では講師を探している。また、「ふれあいサロン」では保育園の園児を招き、交流を行った。</p> <p>屏風ヶ浦 : 屏風ヶ浦地区では3つの取り組みが活発に進んでおり、支えてくれる人たちも集まりつつある。</p> <p>(委員から)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉田地区で高齢者の健康づくりの活動を平成17年10月から始めている。地区が地理的に分離されているため、施設が多い平地地区から取り組み始めたが、来年1月からは杉田台でも歌声楽会を開催するなど「出前」を行っていく予定。各自治会長が非常に協力的で、チラシの掲示などを快く引き受けてもらうなど側面的な支援が進み、活動がしやすくなったと感じている。</li> <li>・ 滝頭地区では目標を文章化することで活発に取り組みが進んでいる。また、滝頭・岡村地区合同で「はまちゃん体操」を普及するための講習会を実施している。</li> </ul> <p>2 あなたの提案実現事業の取り組み状況 (意見等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの事業への参加者数は、当初の計画と比べてどうなのか。 →事業の内容や会場によって受け入れ人数が異なるので一概には言えないが、募集人数を上回る問い合わせがある取り組みもある。今後の課題としては、地域の方とどう連携しながら取り組んでいくかという点である。</li> </ul>

3 しあわせバンクの進捗状況と今後の予定

4 「まめ通信」の発行について

5 推進フォーラムの開催について

(意見等)

- ・ 昨年度のフォーラムでは集客が難しかった。人が集まる福祉フェスタと同時開催することで一人でも多くの人に参加してもらえるのではないか。

6 今後の計画推進にあたって

(意見等)

- ・ 来年度の助成金の総額は変わらないのか。 →現段階では未定。
- ・ 助成金の取扱いについて、地域の人からわかりづらいという声を聞いている。一本化してもらった方が地域にはわかりやすいと思うので、ぜひそうしてほしい。
- ・ しあわせバンクはあなたの提案実現事業と並んで計画の目玉であると考えているが、進捗状況が見えにくい。「立ち上げをめざす」とあるが、いつ頃どのように立ち上げるのかについて説明してほしい。  
→区社協のボランティアセンターと生涯学習支援センターの連携を強化し、お互いに情報をやりとりしながら、区民にとってわかりやすいしくみについては今年度中につくっていきたいと考えている。また、小地域版のしあわせバンクの立ち上げについては、モデル地区での実施など、来年度以降順次取り組みたい。
- ・ 杉田地区の健康づくりの活動は2年前の地区別検討会の直後から始めたが、当初は予算も地域とのつながりもなく、ゼロからのスタートだった。時間の経過とともに知恵が出てきて、19年度は予想以上にうまく進んでいると思う。課題としては、参加者をいかにして集めるか、地区全域への展開、マンパワーの確保など。「健康づくりガイド」をすでに7号まで発行し、「活動に関心のある方はご連絡ください」と掲載しているが、今までに連絡してきた人はいない。スタッフが集まればもっと意義がある活動ができるのにと残念に思う。
- ・ 「はまちゃん体操」はバラエティに富んでいてよくできていると思うが、まだあまり知られていない。地域でもっと広めていきたいので、広報等で周知をしてほしい。  
→まめ通信でも紹介しているが、さらに充実させたい。
- ・ 子どもサポートセンターで活動しているが、区内でも交通が不便な地域が多く、活動先への移動に時間がかかることが多い。新規事業の立ち上げだけに助成金を出すのではなく、古くからの活動も支援してほしい。  
→助成金の制度の見直しは、従来の活動を切り捨てるという趣旨ではない。
- ・ 支えあい事業は10年以上前から続いている活動で、屏風ヶ浦地区ではスイッチONとは別の組織である。スイッチONは支えあいの事業まで一緒に行うという前提では組織していないので、助成金について整理するのであれば、支えあいの組織にもしっかり説明すべきでは。
- ・ 根岸地区では支えあいとスイッチONのメンバーはほとんど同じで、民生委員だけでなく、保健活動推進員、青少年指導員、体育指導委員など地域で活動しているグループの代表から構成されている。地区によって状況は異なるので、今までの事業がどこに整理されるのかはっきりしてほしいと思う。  
→今回検討している内容は支えあいを切り捨てるという趣旨ではないので、今後十分に説明していきたい。また、各地区でいろいろなやり方があるので、今までの活動がやりにくくならないようにきちんと整理していきたいと考えている。

- 支えあいとは地域から自主的に始めたものではなく、行政から要請があって始めた活動である。一方、スイッチONは各地区で住民を集めてやりたいことを決めたが、限られた人たちの意見であり、それだけで地域がよくなるものではない。杉田地区では地区別検討会でたまたま出てきた3つのテーマに取り組んでいるが、それぞれで課題があり、今後について楽観はしていない。ただ、立ち上げたからにはあきらめずにコツコツと取り組んでいこうと思っている。
- スイッチONが全てを拾いきれているとは思っていないが、計画があることで進捗状況を確認できたり課題が明らかになってきたりしていると思う。計画内容についての見直しは考えているのか。  
→計画冊子そのものの見直しは考えていないが、地区の取り組みでは現状をふまえて各年度の事業計画を立ててもらふことになる。地域でも検証を進めてもらい、実情に合わせながら次の計画と一緒に検討していきたい。
- しあわせバンクの検討には住民が入って進めていくべきだと思うが、どのように考えているのか。  
→区民のみなさんの意見を聞きながら、課題を一つずつクリアしていきたいと考えている。
- 計画の策定段階から関わっているが、策定委員会では意見が活発に出たのに、ここでは議論がなかなかできないのがとても寂しく感じる。推進委員会を最初に開催したときに、計画を絵にかいた餅にしないようにしていこうというのが共通の思いだったはずだが、計画が順調に進んでいるのか、課題がどこにあるのかが見えにくくなっているのではないか。
- 推進委員会は回数が少ないので、点と点しか見えない。線や面が見えるようにしてもらわないと活発な意見が出ないのでは。  
→推進委員に情報を十分に伝え、頂いた意見を反映させていくための方法について見直しが必要だと思う。委員会の回数を増やせばいいのか、あるいは別の方法があるのか検討していきたい。
- 計画をつくる時はみんながまとまっていたが、今はどうなっているかわからない。せっかく苦労してつくったものがその後どのように進んでいるのかを確かめるために、各地区で住民に集まってもらい、意見を聞く場を設けたらよいのではないか。
- 地域でそれぞれ悩みがあるので、各地区で意見を吸い上げて検討していく場をつくってほしい。
- 汐見台地区では、スイッチONの行事の参加者にこれはスイッチONの一環でやっているということを理解してもらうのに困っている。参加する側にとっては支えあいでもスイッチONでもどちらでも良いこと。地域の人ほど理解しているのだろうかと思ってしまう。

センター長あいさつ

資 料

- 1 会議資料
- 2 スイッチON磯子 まめ通信 創刊号～4号
- 3 磯子福祉保健センター事業概要